

【卓話】小林泰典さん



～自己紹介～

名前の“たいてん”はお寺の登録名で本名は“やすのり”“です。今年還暦を迎えました。生まれは三島郡の和島村で、自然豊かな中で山菜取り魚釣り素潜りなどを楽しんで育ちました。

父親は小さなお寺の住職の傍ら役場の職員でした。高校卒業後大学受験に落ちた後にどうしようかと考えていたところ、願書を出した記憶は無いのですがいつのまにか日蓮宗立正大学仏教課から合格通知と日蓮宗大本山池上本門寺の入寮許可証が届きました。この頃から大人の世界なのかなと、勝手に導かれるのかなと思いました。

寮生活ではお寺で早朝からお勤めが続き、夜間の大学では、睡眠不足でいつも授業中に寝ていましたし、まったく、お経が読めない劣等生でした。

池上本門寺は日蓮宗の2番目の格式のお寺で住職は、日蓮宗の官長も務められた金子日威貫首でとても偉い方でした。入寮の時に3つの大切なこととして①初心忘れるべからず②欲を持たないで勉強なさい③日に3回自分の行いを顧みなさい を新入生に説きました。今でもこの言葉を大切にしています。

新入の修行僧として、当時は甘茶をペットボトルに詰めて売ったりしました。お茶屋お花など一通り習いました。

やがて、貫首さまのお世話をする係になり、朝から晩まで住職のお世話をする生活になりました。ますますお寺の修行ができなくなりましたが、住職からは可愛がってもらいました。どこかに出かける時のお供に指名されることが多かったです。ですから、日本全国の法要にお供をさせていただきました。大学を卒業し、そのまま本山に残り住職のお世話をするようになりました。その後、日蓮宗の昭和61年の大荒行に入ることになりました。100日間の荒行では水行の間お経をあげ、睡眠時間2時間未満で続けました。結界の中での集団生活なので、さまざまなことがありました。

その荒行の中で思ったことは、修行した300人の僧侶の中で本当に立派な人だなと思う人はごく一部で、そうでもないお坊さんが山ほどいました。

荒行に入った年の12月に私を可愛がってくれたご住職が亡くなりました。荒行から池上本門寺に帰り、法務部という法事やお葬式をやる部署に入りました。ご住職のお供ばかりしていたので、法事や葬式のこととはあまりわかりませんでしたので、一生懸命に勉強しました。書道もいろいろと研究しました。

先輩の中に檀家さんから厚い信頼を集めているお坊さんがいて、どうしてかと考えました。その方は私たちの様に高校を卒業して修行僧になってという経歴ではなくて、一度大学を卒業してサラリーマンを経験した後に出家して修行して本山に入られたのです。私たちと違って目線が違います。檀家

さんと同じ生活をしてきて、その苦勞がわかるのです。お寺からの一方通行でなく相手の気持ちになって会話ができるので、信頼を築けるのです。

平成3年ころからあちこちから縁談がありまして、新潟のお寺さんから話をいただいて、ご縁があつて水原の本妙寺の小林住職の次女と結婚しました。しばらく平成16年まで東京に住んでいましたが、実家の父が亡くなり、そろそろ新潟に帰ることを考えて本妙寺の副住職になりました。ちばな保育園の副園長を務め、その後平成29年に認定こども園に変わり平成30年から園長になりました。また、本妙寺の住職にもなりました。

今回は自己紹介でしたが次回は、こども園のことや保育などについてお話をさせていただきます。